

江口 正元（北海道開発調整部）

1 道の冬季対策への取り組み

本道の約半年間にわたる積雪と寒冷は、産業活動の停滞、交通障害、屋内に閉じこもりがちな生活など、産業経済や道民生活に有形無形の影響を及ぼしている。しかし、このような状況から抜け出して、積雪寒冷という厳しい自然条件を克服するばかりでなく、これを積極的に利用することがなければ、本道経済の飛躍的な発展と道民生活の向上は全く期待できない。このため、道は従来から「冬の開発」を道政の重点課題として取り組み、除排雪の拡大などによる冬期交通の確保や、快適な寒冷住宅の普及、通年施工の拡大、さらには地熱などの利用による施設園芸の育成などにつとめてきたところである。しかしながら、今後とも冬季対策を一層進めるに当たっては、生活、産業はもとより科学技術の分野にわたって、なお解明を要する多くの問題を抱えており、学界、行政、民間あがいでの一層の努力が必要であると思う。

2 先進国に学ぶ

本道は、本州に比べて積雪寒冷であり、気候がきびしく生活しにくい。しかし、地球的視野に立って見た場合、本道に気候、風土が類似するカナダ、アメリカ北部、北欧など北方圏諸国には、北の自然風土にしっかりと根をおろした確固たる生活文化、産業をもった社会がある。ここから、学ぶべきものは学んで、北国にふさわしい文化をもった豊かな地域社会をつくりあげようというのが北方圏構想の狙いであり、道民の間にも次第に定着し、浸透している。

その成果としていくつか挙げてみると、スポーツではカーリングがあり、数年前にカナダから導入したばかりであるが、道内各地に普及し、競技人口は6千人以上にもなってきた。歩くスキーや旭川バーサー大会の盛会をみるまでもなく、いまやすっかり冬のスポーツとして定着している。また、住関係では、高断熱・地下室付住宅、地域暖房の普及も進んできており、今後は、産業面も含めて、なお一層調査研究を進め、活性のある地域づくりに役立てていかなければならないと思う。

3 冬の障害克服から利用へ

積雪寒冷はさけて通ることはできないので、これを克服すると同時に、今後は、積極的に利用することが必要である。近年、道民の間に冬を楽しむ意欲が高まって来ており、カーリング、歩くスキーなど新しいスポーツも芽生え、雪まつりなど国際的な各種のイベントも道内各地で開催されるようになってきている。このようなことから、道としても、北国の冬の生活を快適に過ごすため、衣、食、住、スポーツ・レクリエーションなど、各般にわたる施策を積極的に推進すると共に、北国にふさわしい生活を作り出すための基礎となる科学的研究や新技術の開発が総合的に進められることを期待している。このため、冬の障害克服、利用等について、多面的に研究開発を行なう寒地研究総合機関の設置を長年国に要望してきているが、実現の見通しを得ていないので、関係機関の方々の御理解と御協力を是非お願いしたいと考えている。